

日本人の謎の大量死

日本の死亡数は高齢人口の増加に伴い増え続けている。

2020年、コロナ騒動が始まった年には、パンデミックとされながら死亡数が前年より減るという異例の死亡数を記録した。

2021年からワクチン接種開始。翌2022年（2月）から「謎の大量死」が発生した。青線は厚労省所管の国立社会保障人口問題研究所が公表している推計値（2017年公表中位推計）。それを10万人規模で上回る異常事態が3年続いているのが分かる。高齢化を見越して年々上がる推計値を遥かに超えているのだから高齢化では到底説明できない。

2022年～2023年にかけて謎の大量死は、特定の月に突出して起きた。2022年2～3月、2022年8月、2022年12月～翌1月だ。

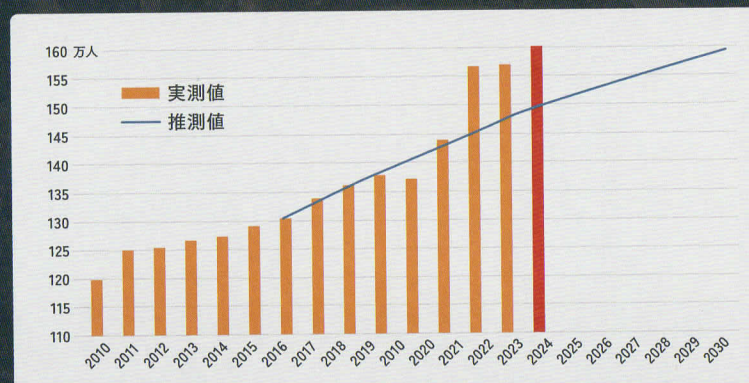
超過死亡数という「予測される死亡数を越えた数」を基準（青線）にすると、3回のピークがあることが確認できる。いずれもその少し前（数週間前）に高齢者のワクチン接種のピークがあった。勿論これだけでは因果関係は分からないが関係が疑われるのではないだろうか。

新型コロナワクチンによって、何万～何十万という死亡者が出てしまった。これは荒唐無稽な陰謀論だろうか？

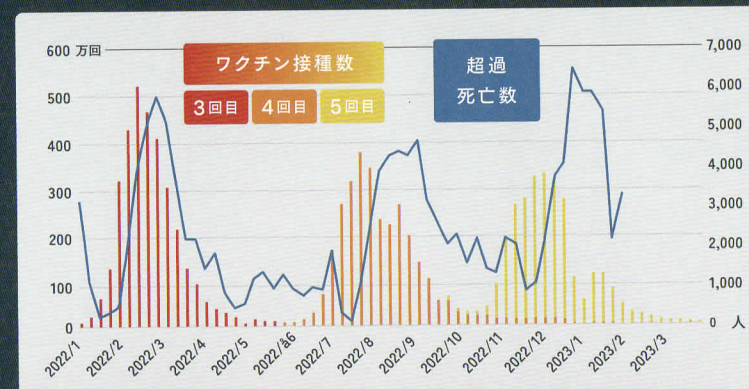
浜松市が開示したデータから驚くべき実態が見えてくる。浜松市ではワクチン接種後3日以内に亡くなった方は117人いると分かった。

そのうち、医師らがワクチンが原因である可能性を考え、副反応疑い報告を行なったのはわずか6人だった。副反応疑い報告は2,295名という莫大な数字になっているが、これすら氷山の一角であることは間違いないだろう。

謎の大量死の原因がワクチンであると断定的に申し上げるつもりはない。しかし、2025年に入った今も謎の大量死は続き、平均するとこの3年以上の間、毎日数百人がよく分からず亡くなっていることになる。今日もそれは起きており、明日もそれが起こるのだろう。原因はどうあれ、まずは真相を究明すべきだ。



日本の
年間死亡者数



高齢者の
ワクチン接種数と
超過死亡数の推移

ワクチン接種と死亡日の間隔	死亡数	副反応疑い報告数
当日	9人	2人
翌日	46人	2人
2日後	29人	1人
3日後	33人	1人
計	117人	6人

報告率
5.1%

浜松市民80万人の
リアル・データが語る
ワクチンの真実